

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

■ 美術教育をととして美術造形に対する憧憬を生涯の目標とし、人生を拓く力、品性溢れる人格を育む — Spread the KONAN-Style —

- 1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力を育み、生涯にわたって美術を愛し、生活の場において美意識を大切にする生徒を育成する。
- 2 自分にあった進路が発見できる環境を整えて進路実現につなげるとともに、社会人としての責任感や品性を育成する。
- 3 美術造形教育のセンター校として、美術造形教育の充実・振興に貢献し、文化都市大阪の実現に寄与する。

## 2 中期的目標

## 1 創造的活動の源泉となる「確かな学力」と「言語表現力」の育成

(1) 造形表現に必要な基礎的で確かな学力の定着に取り組む。

- ア 生徒に自身の学力プロフィールや将来への必要性を客観的に理解させ、実技教科と同様に普通教科に対する関心・意欲を高め、学習に取り組ませる。  
また、家庭学習強化週間などを通して、学習の大切さに気付かせるとともに学習習慣を身につけさせる指導に取り組み、学習意欲を喚起するために学力テストを活用し、基礎学力の確かな定着をめざす。
- イ 生徒の学力が多様であることを踏まえ、個に応じた学力の養成を行うために普通教科においても少人数授業の実施を検討し、ICT 機器の利用を一層推進する。また、読書活動の充実に加え調べ学習を効果的に採り入れ、創造的活動の基礎・基本となる幅広い学力の養成に努める。
- ウ 造形科の合評とともに普通教科においてもプレゼンテーションや相互批評を行うなど、常に工夫と研究を重ね「主体的・対話的で深い学び」をめざしコミュニケーション能力と言語表現力の育成を図る。また、卒業制作プレゼンテーションなど、コミュニケーション力を実践させる機会を積極的に設ける。
- エ 日本の伝統文化や伝統工芸とともに世界の文化遺産を自らの眼で見る機会をつくり、それらの学びや体感をとおして幅広い教養を身につけさせる。また、教員の指導力向上のため校内研修を充実させる。
- ※ 授業アンケートにおいて普通教科の「授業内容に興味・関心をもつことができたか」について肯定的回答(平成 28 年度 75%)を 5%引き上げて維持し、平成 31 年度には 80%とする。
- ※ プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成については、卒業時にはすべての領域の生徒が ICT 機器を活用するなどしてボードや映像を用いてプレゼンテーションを行える力を身につけさせ、造形表現力とともに言語表現力の育成を図る。授業での ICT 機器活用(平成 28 年度は 2355 時間)を毎年 3%引き上げて、平成 31 年度には 2500 時間に増加させる。
- ※ 生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、自他の権利を尊重し互いにたえ合えることができる力の醸成を図る。

## 2 将来展望がもてる進路指導の実現

(1) 将来の職業につなげる志や力を身につける。

- ア 生涯にわたる美術造形とのかかわり方や広い視座による将来展望を考えさせるとともに、将来の職業につなげていく志や力を育てるため、内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。
- イ 早期からガイダンスを計画的に実施し、具体的な目標の実現に至る道筋を示すとともに、個に応じたきめ細かな進路指導を組織的に行う。  
また、国公立大学(美術系等)や難関私立美大進学を実現につなげる進路指導体制を整備する。国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の時間について整理と管理を行う。
- ウ 個別の進路決定につながるきめ細やかな進路指導の充実を図る。
- エ 進路指導の指標として、自ら選択した進路希望の達成・満足度などを「進路情報等に関するアンケート調査」にて実施し、進路指導の充実を図る。
- ※ 進学希望者講習への参加者(平成 28 年度 120 名)を毎年 5%引き上げ、平成 31 年度には 139 人にする。
- ※ 創造的活動に意欲的に取り組ませるとともに社会人としての基礎力を養成するため、部活動への積極的な加入をすすめ、改善を重ねてきた部活動加入者数(入部率 110%)や高校展等への出品者数(1、2 年生の出品率 50%)が減少しないよう取組みを継続し、平成 31 年度においても現在の水準を維持する。
- ※ 卒業時に「個別の進路決定にあたって進路指導が役立ったか」の調査を行い、肯定的回答が平成 29 年度は 80%となるように努め、平成 31 年度においても維持させる。
- ※ 卒業時に行う「進路指導等に関するアンケート調査」において満足度が 90%となるよう努め、平成 31 年度においても維持する。

## 3 美術造形教育センター校としての役割

(1) 府立唯一の美術専門学科設置校としての役割を担う。

- ア 大阪の美術教育の振興に貢献するため本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、校種をこえて小・中学校の教員向けの実技研修会を実施する。
- イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動、公募展等へ積極的に参加させ、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。また、地域をはじめとして大阪や全国にも本校の存在感を示していく。
- ウ 府立高校で唯一の美術造形専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等の適切な改善と充実を図るとともに、国際情勢を見つつ海外研修旅行の実施に向けて取り組む。
- エ 校外における生徒作品の展示、報道媒体への情報提供、HP の充実等による積極的な広報活動を展開し、大阪における本校の存在感を高める。
- ※ 本校で開催する小・中学校教員を対象とする研修会やワークショップへの参加者数は、平成 31 年度においても 100 名以上の水準を維持させる。
- ※ 海外、国内の作品に触れる機会を設けることにより、創造的活動を通じて国際理解教育の推進を図り、平成 31 年度においても海外、国内の作品に触れる機会を 5 回以上実施を維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 月実施分]	学校協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 創造的 活動の 源泉と なる基 礎学力 と言語 表現力 の育成	(1) 基礎的で確かな 学力・言語表現 力の育成 ア 学力診断テスト の活用 イ 読書活動の充実 ウ 言語表現力の育 成 エ 知的好奇心の育 成	ア 学力診断テストを年2回実施し、自己の学力 の相対的な状況を認識させるとともに、造形表 現力の向上には基礎学力を向上させることが 不可欠であることに気付かせる。 イ 調べ学習を積極的に採り入れるとともに、創 作活動には読書や鑑賞が重要であることを理 解させ身につけさせるため、授業における図書 館利用やICT機器の活用を促進する。 ウ 自分の考えを人に伝える言語表現力を向上さ せるため、生徒間の意見交換やプレゼンテー ションの機会を確保する。 エ 日本の伝統文化・伝統工芸、世界の美的文化 遺産に対する興味を喚起し、幅広い教養を身に つけさせるために知的好奇心を育成する。	ア・学力診断テスト結果 第1回(5月)と第2回(8月)の学 習到達度ゾーンの比較を活用す る。 (上位ゾーン 20%向上 H28 は 33.3%上昇) イ・授業の図書館利用や ICT 機器利 用 3%増。 (H28 は 2355 時間) ウ・学力診断テストにおける国語で重 点的に測定。 (下位ゾーン 20%減少 H28 は 40%減) エ・外部講師による講座 10 回実施。 (H28 は 12 回) ・海外、国内の作品に触れる機会を 設ける。 (5回実施 H28 は 7回)	
2 将来展 望が持 てる進 路指導 の実現	(1) 将来の職業につ なげる志や力を 身につける ア 高一大・専連携講 座や講演を充実 イ 進学希望者講習 の充実 ウ 卒業時に進路指 導に対する意識調 査を実施。 エ 希望した進路が 実現できたかを 調査をする。	ア 大学・専門学校から講師を招いて行う講演会 は、「美術造形の学びを将来の職業に生かす」 というテーマに基づいて実施する。 イ 進路実現に向けた進路指導體制を構築し、国 公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にし た講習を計画的・組織的に実施し、年間をと おして受講者の定着を図る。 ウ 進路指導が個別の進路決定に役立ったかを調 査し、その分析を進路指導の充実に活用する。 エ 卒業時に自分の進路目標が達成できたのかを 調査し、生徒の進路満足度の向上につなげる。 また、今後の進路指導計画策定の資料として活 用する。	ア・講座参加生徒数 500 名以上。 (H28 は 521 名) イ・進学希望者講習の受講者数 126 名 以上(H28 は 120 名) ウ・進路指導満足度 80%以上。 (H28 は未調査) ・卒業生による交流会や講演会開催 エ・希望進路達成率 90%以上。 (H28 は 91.6%)	
3 美術造 形教育 センター 校とし ての役 割	(1) 府立唯一の美術 専門学科設置校 としての役割を 担う ア 小中学校教員対 象実技研修会実施 イ 学外展への積極 的出品参加を奨励 ウ 学校の専門施設 設備の充実 エ 広報活動の充実	ア 小・中学校教員を対象にした実技研修会を大 学等と連携して実施する。 イ 高校展や芸文祭等の高校生向け公募展はもと より、大学・専門学校や企業などの外部団体が 主催するコンクールに積極的に出品させ、制作 意欲の喚起に資するとともに力量や質の向上 につなげていく。 ウ 専門施設設備の維持管理に努め、更新と充実 に努める。 エ 積極的な広報活動のため、ホームページの更 新に努める。	ア・参加者数の 120 名以上維持 (H28:120 名) イ・出品者数の維持 (高校展 260 名以上) (芸文祭 210 名以上) ウ・必要な更新の優先順を決め計画的 に維持更新を行う。 エ・ホームページは H28 に全面リニ ューアル済みにつき、今後は年間 12 回 更新する。	